

オートバイによるツーリズムと地域活性化に関する研究

経営学部 経営学科 梅村ゼミ
B4R11095 塩原慶之

【卒業論文概要】

全国各地で様々な町おこし活動が行われている。そんな中で埼玉県秩父郡小鹿野町は日本でも稀なオートバイを活用した町おこし「ウェルカムライダーズおがの」という活動を行っている。

本論文の目的は埼玉県秩父郡小鹿野町で行われている「ウェルカムライダーズおがの」の活動を通し、オートバイによるツーリズムが地域に与える影響とその可能性を明らかにすることである。

小鹿野町役場の職員の方で、この活動を進めてきた方にインタビュー調査を行った。活動が始まった背景は、もともと「わらじかつ丼」という名物を目的に町に来ていたライダーが多く、多少なりとも小鹿野町の経済効果に寄与していると考え、「来やすく、居やすく、また来たい」町づくりをしていこう、さらに、この事業を通し、交通安全の推進、交通ルール・マナーのイメージアップを図ることで、社会からのイメージが悪いオートバイという乗り物のイメージを変え、より良いライダーを町に迎え入れようといったものである。活動として、屋根付き二輪駐輪場の整備、ツーリングマップの作製などが効果的で、屋根付き二輪駐輪場の整備により、オートバイライダーの利用者の増加と滞在時間の増加などから、観光情報館「夢鹿蔵」の売り上げが2割近く伸びた。ツーリングマップの作製により、この活動に協賛をしてくれている商店街の活性化に繋がった。今まであまり人気のなかった店舗への客足が伸びたことが大きいことが明らかになった。商店街全体の経済効果については調査が難しく、オートバイの交通調査などから割り出した結果、3割ほど伸びていると検討する。この活動からの2次効果が大きく、一度一人でバイクで来てから、後日家族や友人を連れてくることも多い。そのため、経済効果はもう少し高いものであるだろう。メディアで取り上げられたりと広報活動の後押しもあり、経済効果の面では良い結果が出ていることが明らかになった。しかしながら、課題としては地元住民の活動の反対などがあげられる。ゴミや騒音、暴走行為などが増えたためである。商店街は潤ったが、地域住民からは反対が大きく、この事業が始まった時の町長が選挙で負けてから事業はトーンダウンしている。このため、現在町としての大きい活動は控えており、民間団体として「ウェルカムライダーズおがの」を立ち上げ、その団体への協賛、バックアップといった程度に努めている。現在は地域住民元からの苦情も少なくなった。今後、地域住民とのかわり方や既存施設の再利用を課題として提示した。